

66年11月9日にインディカ画廊で出会って以来、しだいに協力関係を強めていったジョンとヨーコが「男と女の関係になった」とされる、68年5月20日の「記録」である。妻シンシアの不在をいいことにヨーコをウェイブリッジの自宅に招いたジョンは、彼がひとりで録音したさまざまな「非音楽」を聴かせ、それをふたりのミュージック・コンクレート作品として仕上げふたりはサウンド・コラーージュやノイズのコレクションに、さ

さまざまな楽器や喋りを含む声を加えたテープを約30分に編集して、この『未完成作品第1番…トゥー・ヴァージンズ』としたあと、関係としての「ヴァージン」を踏み越え、その記念に全裸写真を撮ったのだった。ジョンはこの作品をアップルからリリースしようとしたが、英EMI、米キャピトルとも発売を拒否。英国ではトラック・レコードの流通に乗って、剥き出しで、アメリカではスポークン・ワードものを数多く出していたテトラグラマトンの配給

で茶色の袋に入れられて発売されたが、ヌードのジャケットに非難が集中し、内容については「アヴァンギャルド」の一言で片づけられた。発売当時はファンからも身内（ほかのビートルやアップルの関係者）からも酷評されたアルバムだが、ジョンの死後、音楽芸術としての評価とは別の次元で「ジョン・レノンを理解するための歴史的資料」として価値は年々高まり、ヨーコとの出発点（＝ソロ・イヤーズの原点）を記録した貴重な作品と評され

るようになった。英国ではモノラル盤（ジャケットに文字が入っている）も出たが、全体の5分の1、1000枚ほどのプレスだったらしく、ビートルズ関係の正規英国盤LPの中では屈指のレア・アイテムとなっている。茶袋入りのアメリカ盤は多くがリプロ盤なので、購入する際は要注意。なおCDには、シングル「グヴ・ピース・ア・チャンス」のB面だったヨーコの佳曲「リメンバー・ラヴ（ヨーコの心）」がボーナス収録されている。

Unfinished Music No.1: Two Virgins

John Lennon & Yoko Ono

LP UK
Apple/Track APCOR2 (mono), SAPCOR2 (stereo) [1968.11.29]



[A] ① Two Virgins No. 1 ② Together
③ Two Virgins No. 2 ④ Two Virgins No. 3
⑤ Two Virgins No. 4 ⑥ Two Virgins No. 5
[B] ① Two Virgins No. 6 ② Hushabye
Hushabye ③ Two Virgins No. 7 ④ Two
Virgins No. 8 ⑤ Two Virgins No. 9 ⑥ Two
Virgins No. 10

LP US
Apple/Tetragrammaton T5001
[1969.1.6]



るようになった。

英国ではモノラル盤（ジャケットに文字が入っている）も出たが、全体の5分の1、1000枚ほどのプレスだったらしく、

ビートルズ関係の正規英国盤LPの中では屈指のレア・アイテムとなっている。茶袋入りのアメリカ盤は多くがリプロ盤なので、購入する際は要注意。

なおCDには、シングル「グヴ・ピース・ア・チャンス」のB面だったヨーコの佳曲「リメンバー・ラヴ（ヨーコの心）」がボーナス収録されている。

Unfinished Music No. 2: Life With The Lions

John Lennon & Yoko Ono

LP UK

Zapple ZAPPLE01 [1969.5.9]



[A] ① Cambridge 1969 [B] ① No Bed For Beate John ② Baby's Heartbeat ③ Two Minutes Silence ④ Radio Play

LP US

Zapple ST3357 [1969.5.26]

「未完成」作品第2番

ジョンとヨーコ

LP JAPAN

ザッブル AP8782 [1969.10.10]



LPのA面を占める「ケンブリッジ1969」は、69年3月2日にケンブリッジ大学のレディ・ミッチェル・ホールで開催された「前衛ジャズ・フェスティバル」に招かれたヨーコ・オノ・バンドの演奏と言っている。ビートルズ史には「66年の公演停止以来、ジョンが初めて人前で演奏した」として記録されるライブだが、ヨーコのヴォイス・パフォーマンスのバックでフィード・バック・ノイズを出し続ける「ギタリスト」がジョンの役で、後半、ジョン・チ

カイのサクセスと、ジョン・ステイヴンスのパーカッションが加わってからも、主役はヨーコである。恐山の巫女を想わせる圧倒的なヴォーカライゼーションは「東洋の魔女」の印象をいっそう強くし、彼女はビートルズ・ファンからさらに嫌われていくわけだが、ニューヨークの前衛アート集団、フルクサスの一員として60年代初頭から先鋭的なパフォーマンスを繰り返していたパイオニアらしい、堂々たる佇まいが記録されている。B面は、68年11月4日から25

日まで、ロンドンのクイーン・シャローロット病院に入院していたヨーコの、流産のドキュメントだ。ヨーコの即興にジョンが唱和する「ビートル・ジョンにベッドはない」は、「ゴッド」の引き金になったナンバーとも言える。ジャケ表の写真はそのときの様子で、ジョンは寝袋を持ち込んでつきそっていた。一方ジャケ裏は、68年10月19日に大麻不法所持の容疑でメリル・ブーン裁判所に出廷したときの写真。下に添えられたジョージ・マーティンの一言、「ノー

・コメント」が気が利いている。ちなみにアルバム・タイトルは、50年代に英国で人気を博したラジオ／TVドラマ「ライオン一家との生活 (Life With The Lyons)」に由来する。英国にやって来た米国人一家が、彼らの常識とは違うブリティッシュ・マナーに戸惑うさまを面白おかしく描いたコメディで、ジョンが好んだ「グリーン・ショウ」では「ライオン一家」の「健全さ」が格好のネタになっていたという。この引用は当然「グリーン・ショウ」的逆説だった。